


ICT 学習支援教材コンテンツ活用実践事例

		学校名	青森県立青森聾	学校
授業について	教科領域名 (✓又は■で記入する。)	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数・数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 外国語・外国語活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作・美術 <input type="checkbox"/> 体育・保健体育 <input type="checkbox"/> 技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input checked="" type="checkbox"/> 総合的な学習(探究)の時間 <input type="checkbox"/> 日常生活の指導 <input type="checkbox"/> 生活単元学習 <input type="checkbox"/> 作業学習 <input type="checkbox"/> 遊びの指導 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> その他()		
	単元(題材)名	自分の課題を解決するためのプログラミングを考えよう		
	単元(題材)の目標	①自分の興味関心や課題を具現化し、解決に向けた見通しをもつための方法を理解することができる。 ②目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現することができる。 ③課題解決の状況を振り返り、適切な動きになるようにプログラミングを修正しようとする。		
学習集団と実態	学部・学年・人数	小学	部	4 年 1 人
	本単元(題材)における学習集団の主な実態	※個別学習の場合は、個人の本単元(題材)における主な実態を端的に記入する。 ・聞こえについて「振動しか聞こえない」「声は聞こえても、何を言っているかは分からない」といった発言も見られる。 ・主なコミュニケーション手段は、手話、指文字である。明瞭な発音は難しく、早口になることもあるが、伝えたいことを積極的に話すことができる。 ・総合的な学習の時間では、興味関心があることについて図鑑やインターネットを使って調べることができる。情報を整理したり、考えを文章化してまとめたりする際は教師の支援が必要である。 ・ICT機器の扱いについては、ローマ字を完全に覚えていないため、文字入力に時間がかかるものの、調べたいことを検索することができる。		
ICT活用について	使用した支援機器・教材の名称	※使用したICT機器(入出力支援装置等)名を記入する。 WindowsPC		
	使用したアプリケーションの名称	※使用したアプリケーション名を記入する。 Google Chrome Scratch	アプリマーク 	
	主な活用の用途 (✓又は■で記入する。)	(複数選択可能) <input type="checkbox"/> コミュニケーション支援 <input type="checkbox"/> 活動支援 (<input type="checkbox"/> 情報入手支援 <input type="checkbox"/> 機器操作支援 <input type="checkbox"/> 時間支援) <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 (<input type="checkbox"/> 教科学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 認知発達支援 <input type="checkbox"/> 社会生活支援)		
	ICT活用のねらい	自分の興味関心や課題を具現化し、解決に向けた見通しをもつための方法を理解することや目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現できるようになる。		
活用の状況と支援	※ICT活用場面で行った支援について記入する。 前時までに作成したプログラムを見ながら、Scratch及びOntennaを使ってプログラミングに取り組んだ。鳴く犬の動画及びOntennaの反応を楽しみながら、プログラム通り反応しているか確かめた。 【支援】 ・騒音計アプリを使い、適切な音量か確認した。 ・思い通りに反応しなかったときは、プログラムを見直すよう促した。			